

2011年度

科目名	医療薬学演習B				
担当教員	小川 雅史、田中 高志、西中 徹、綿野 智一				
配当	薬科4			コード	32185
開期	後期	講時	水曜日2限	単位数	1
授業テーマ	【必修】 薬物治療に役立つ医薬品に関する知識を学ぶ				
目的と概要	医薬品の作用する過程および製剤化の方法・意義を理解するために、医薬品の物理化学的性質、医薬品の体内動態、製剤の調製・医薬品の品質管理について知らなければならない。また、薬物治療の対象となる疾患の病態についての理解も必要である。本科目では、薬剤学I、IIならびに薬物動態学I、IIの講義および実習で学んだ医薬品に関する知識とともに、薬物治療学A-D、病態検査学ならびに臨床分析化学で学んだ各疾患の病態や検査データに関する知識を、広く生化学や栄養学とも関連づけて演習形式の学習を通じて理解を深めることを目指す。				
成績評価法	期末試験（共用試験）50点、期末試験50点。ただし平常点を加味し総合的に評価する。				
テキスト	配布資料および指定する教材を使用				
参考書					
履修に当たっての注意・助言/準備学習	補助教員：藤井敏彦、村上正裕、雪村時人、堀切勇児、山形雅代、竹橋正則、田中静吾				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標（SBO）	コア対応番号	学習領域
1	演習	薬の作用と生体内運命 （担当：西中、補助：藤井）	1. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現のかかわりについて説明できる。	C13(1)	知識
			2. 薬物とタンパク質の相互作用による体内動態の変動を説明できる。	独自	知識
			3. 薬物と食品との相互作用による体内動態の変動を説明できる。	独自	知識
2	演習	薬物の臓器への到達と消失 （担当：西中、補助：藤井）	1. 薬物の主な吸収部位を列挙できる。	C13(4)	知識
			2. 薬物分布の変動要因（血液量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。	C13(4)	知識
			3. 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙し説明できる。	C13(4)	知識
			4. 腎における排泄機構について説明できる。	C13(4)	知識
3	演習	薬物動態の解析 （担当：西中、補助：藤井）	1. 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。	C13(5)	知識
			2. 治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。	C13(5)	知識
4	演習	分析技術の臨床応用 （担当：西中、補助：竹橋）	1. 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙し、その原理を説明できる。	C2(3)	知識
			2. 代表的な画像診断技術について概説できる。	C2(3)	知識
5	演習	病態と症候 （担当：綿野、補助：竹橋）	1. 様々な症候について、生じる原因と代表的な疾患を説明できる。	C14(1)	知識
			2. 特定保健食品と病態との関係を説明できる。	独自	知識
			3. 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。	A(2)	態度
6	演習	臨床検査値 （担当：綿野、補助：竹橋）	1. 代表的な肝・腎・呼吸・心機能検査を列挙できる。	C14(1)	知識
			2. 栄養の検査値におよぼす影響を説明できる。	独自	知識
			3. 悪性腫瘍の検査を列挙し、推定される腫瘍部位が説明できる。	C14(1)	知識
			4. 薬物治療における臨床検査の役割を説明できる。	独自	知識

7	演習	心臓・血管系疾患の薬物治療 (担当:綿野、補助:雪村)	1. 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。	C14(2)	知識・技能
			2. 心臓・血管系の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)	知識
8	演習	血液・造血器疾患の薬物治療 (担当:綿野、補助:雪村)	1. 血液・造血器の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)	知識
			2. 消化器系疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)	知識
9	演習	腎臓・尿路疾患の薬物治療 (担当:田中高、補助:山形)	1. 腎臓・尿路の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)	知識
			2. 呼吸器・胸部の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)	知識
10	演習	内分泌系疾患の薬物治療 (担当:田中高、補助:田中静)	1. 内分泌系疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)	知識
			2. 代謝性疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)	知識
			3. 神経・筋の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)	知識
11	演習	精神疾患の薬物治療 (担当:田中高、補助:田中静)	1. 精神疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			2. 耳鼻咽喉の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
12	演習	皮膚疾患の薬物治療 (担当:田中高、補助:田中静)	1. 皮膚疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			2. 眼疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
			3. 骨・関節の疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)	知識
13	演習	製剤材料の性質 (担当:小川、補助:堀切)	1. 溶液の濃度と性質について説明できる。	C16(1)	知識
			2. 界面の性質について説明できる。	C16(1)	知識
			3. 粉体の性質について説明できる。	C16(1)	知識
14	演習	剤形をつくる (担当:小川、補助:村上)	1. 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。	C16(2)	知識
			2. 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。	C16(2)	知識
			3. 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。	C16(2)	知識
15	演習	DDS (担当:小川、補助:村上)	1. DDSの概念と有効性について説明できる。	C16(3)	知識
			2. 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。	C16(3)	知識
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(2) C2(3) C13(4, 5) C14(1-4) C16(1-3)	演習	講義室	4(7)	スライド、配布資料	90分 x 15回